

| ディプロマ・ポリシー | | | カリキュラム・ポリシー | アドミッション・ポリシー |
|---|-----|---|---|--|
| <p>本専攻博士後期課程では、本学の定める修業年限以上在学し、次のような能力・資質を備えた上で、10単位以上（修士課程における修得単位数を含まず）を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の意見を聴いて、学長が課程修了を認定します。課程修了が認定された者には、博士（文学）の学位を授与します。</p> | | | <p>本専攻博士後期課程ではディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、コースワークとリサーチワークをバランスよく配置し、より高い研究能力を育成し研究遂行を支援するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。</p> | <p>本専攻博士後期課程は「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた人を求めます。</p> |
| 1. 知識・理解 | 1-1 | 日本の言語・文学・文化に関する該博かつ卓抜した学識を修得している。 | <p>1. 本専攻では、日本語学研究および日本文学研究の教育課程を編成し、研究者として自立する実力を培うことができます。それぞれの分野の講義科目と演習科目を有機的に組み合わせ、能動的に学修し、高度な専門性を有する職業人や社会において指導的な役割を担う研究者を育成することを目指します。</p> <p>2. 指導教員が担当する「特殊演習Ⅰ」「特殊演習Ⅱ」「特殊演習Ⅲ」（いずれも必修科目）を通じて、その学生の研究課題の決定、研究計画の作成から博士論文の作成に至るまでの指導を行います。</p> <p>3. 各科目の学修成果の測定と評価にあたっては、あらかじめ評価指標を明示し、適切・公正な評価を実施します。また、博士論文をもって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p> | <p>修士課程で培った専門性をさらに高め、日本語日本文学のみならず、日本文化全般について、研究者として自立して研究活動を行い、または高度に専門的な業務に従事するために必要な学識と能力を身につけたいと希望する者で、優れた資質を持ち、公正な研究を遂行するための倫理意識を確立しており、学問に対する意欲にあふれた者を受け入れます。</p> |
| | 1-2 | 人文・社会・自然に関する広範な知識を体系的に整理・理解し、俯瞰的な位置から対象を観察し論理的に思考を組み立てることに長け、かつ日本語・日本文学の諸問題をその知識体系において構築し把握している。 | | |
| | 1-3 | 高度にして体系的な知識を複数の異なる視点から把握し、現象を多様な価値観の下に捉えている。 | | |
| 2. 技能・表現 | 2-1 | 専門研究のあらゆる過程において、洗練された説得力のある言語コミュニケーション力を用いて表現するとともに、ICT技能を駆使したすくれて精緻なプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。 | | |
| | 2-2 | 大学院における学修の成果を活用することによって、学会等を含む社会での諸活動を牽引することができ、かつ地域社会、国際社会において貢献するための多彩なコミュニケーション能力を身につけている。 | | |
| 3. 思考・判断 | 3-1 | 日本語・日本文学に関して身につけた専門的知識を捉えなおし、批判的に考察するとともに、優れた見識を持って専門分野における研究者として新たな学説を生み出すことができる。 | | |
| | 3-2 | 日本語・日本文学の学習に基づく知性と感性によって、論理的・実証的に思考する能力および状況判断・問題解決の能力を備えており、その能力を活用して新たな知の地平を切り開くことができる。 | | |
| 4. 態度・志向性 | 4-1 | 日常生活の中で大学院での学修の価値を認識し、常に研究の徒として探求的学問態度を保ち続けることによって、後進の亀鑑となることができる。 | | |
| | 4-2 | 広範で体系的な知識、豊かな感性、しっかりとした倫理観に基づき、専門職としての責任感を持って家庭・事業体・地域社会・国際社会において自らの役割を自覚しながら使命を全うすることができる。 | | |